

2 研究の実際

国語の漢字学習では、「はね、とめ」等細かいところまで正確に書くこと、算数の計算学習では、正しい答えを導き出すときに計算を間違えないことを教師は要求します。よって、外国語活動の授業を受けるときにも、「間違えないように」「正確に」「全部分からないといけない」と感じ、それができないから「自分は英語がよく分からない」と思っている児童もいます。外国語活動の授業が楽しいと感じる児童が90%である一方で、不安感を抱えている児童がいるのも事実です。以下は、外国語活動に関する事前アンケートに書かれた児童の思いです。

外国語活動に対する児童の感想の一部

- ・あまり外国語がしゃべれないから、伝えるときに間違ったらはずかしい。(技能面を重視)
- ・英語を覚えるのが難しい。(技能面を重視)
- ・塾に行っているので、ある程度の単語が分かるので英語が分かる。(技能面を重視)
- ・ローマ字は好きだけど、英語はしゃべることができない。(技能面を重視)
- ・あてられたら、英語で言うことに緊張して、戸惑う。(慣れ親しませる体験の不足)
- ・英語の意味が分からないから好きではない。(慣れ親しませる体験の不足)

これらの感想から、外国語活動では英語を聞いて理解し、正しく話すことができなければならないという技能面のみ重視する意識を強くもっているがゆえに、それができない自分に自信をなくしてきている様子が見えてきます。英語の塾などに行っている児童だけが活躍するようなイメージをもっている児童もいます。また、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる体験を十分にしていないのに伝える場面が設定されるため、児童が不安感をもったまま臨んでいる様子が浮かびます。よって、どの児童も安心感をもって授業に臨み、自分でできる最大限の表現方法を使って、進んでコミュニケーションを図ろうするようになるための手立てを考えました。

(1) 本研究における「コミュニケーション」「心をつなぐ活動」の捉え方

○コミュニケーション

広辞苑によると、コミュニケーションとは、「①社会生活を営む人間の間に行われる知覚・感情・思考の伝達。言語・文字その他視覚・聴覚に訴える各種のものを媒介とする。②動物個体間での、身振りや音声・匂いなどによる情報の伝達」とあります。知覚・感情・思考を伝えるときに、言語や文字だけでなく、五感を通して感じることも全てが伝達的手段となることが分かります。本研究では、「言葉に加え非言語情報も含めた伝達手段を使ってやり取りされる意味・感情・思考の伝達」と捉えます。

○心をつなぐ活動

「心をつなぐ活動」とは、他者とのかかわりの中で、相手を理解しようとする気持ちをもったり、自分のことを受け入れてもらった喜びを感じたりするコミュニケーションの体験活動と捉えます。コミュニケーション活動をしていく中で、「自分の言うことを聞いてもらった」「話を聞いて、相手のことがより分かった」と感じる事ができれば、人とかかわっていくことを楽しいと思うようになると思います。そうすると、相手のことを「もっと知りたい」「もっとかかわりたい」という気持ちが湧き、さらに心地良いかかわりの体験を重ねていきたくなるでしょう。そうすることを繰り返して体験していくことで、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度が育っていくと考えます。「心をつなぐ活動」は、単元終末のインタビュー活動だけでは

なく、あいさつひとつにしても、「心をつなぐ活動」と捉えます。人とかかわるときに、相手に向き合って丁寧に、心を寄せて交流しようとする姿勢や気持ちをもって接している態度をほめていきます。そうすることで、自分でできる最大限の表現方法を使って思いを伝え、相手の言いたいことを理解しようとする意欲やコミュニケーション能力を育てていきたいと考えます（図 1）。

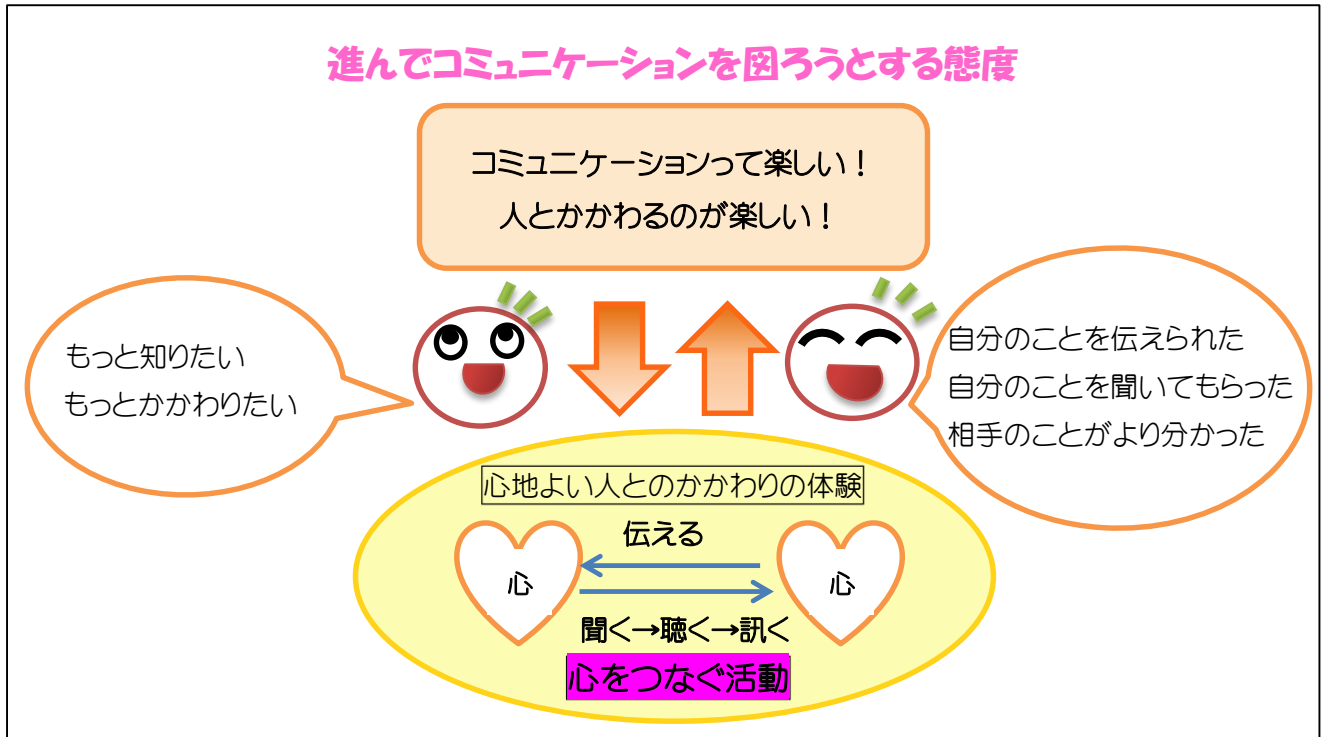


図 1 「心をつなぐ活動」と児童の意識のつながり